

柏崎地区納税貯蓄組合連合会長賞

『税を納めるということ』

柏崎市立第三中学校 三年 大矢 菜々花

税について考えると、私はいつも不安になっていた。「近年、少子高齢化の影響で社会保障の費用が増えていて、一人一人の税負担が大きくなっている」という話をいつかのニュースで見たからである。私が大人になる頃には、今よりもっとと生活が苦しくなっているのだろうか。そう考えると、希望にあふれていた未来が少し曇ってしまう。正直、私は税による恩恵をあまり感じたことがなく、更に社会保障費など知らないお年寄りのためにお金を払いたくないとまで思っていた。この作文を書くにあたって、折角なら自分たちの払っている税金が何に使われているか知リたかったので、それについて調べてみた。

まず、最も多く使われている社会保障費について調べてみた。調べてすぐに、自分は大きな勘違いをしていることに気がついた。社会保障費とは、お年寄りにかけるお金だけではなく、福祉や、私たちの医療費の一部にも使われていたのだ。他にも税金は、教科書や道路整備、警察や消防など様々なことに使われていた。私は、前の自分の考えがいかに愚かで自己中心的だったか思い知らされた。私はすっかり税金の恩恵を受けていたのだ。税について知らなかったために、恩恵を感じないなどという勘違いを起こしていた。

税金のおかげで学べている。税金のおかげで今を健康に生きられている。大人たちが精一杯働いて税金を納めてくれているおかげである。それに気がつく、働く人々がカッコよく見えた。私たちは、その人々に教育を与えてもらっているのだ。命も救ってもらっているかもしれない。税を納めてくれる人というのは、言わば私たちにとっての「ヒーロー」であると思い始めた。そして私はそんな方々に対して、「税を払いたくない」と思ってしまった。これ以上ないほどに恥ずかしいことであると、深く反省した。

「税を納める」という行為に対する考え方が変わると、私の見ている未来は少しの曇りもなくなった。税を納めるということは、私たちをここまで育ててくれた「ヒーロー」に恩返しをすること、そして自分が新しく誰かの「ヒーロー」になるということだ。税に対してマイナスイメージがある人は、きっと税のことを誤解していて、この「ヒーロー」の存在に気づいていないのだろう。そのような人は少しでも税に関する知識をつけてほしい。すぐに自分の間違いに気づき、見方、考え方が変化するはずだ。税は人々を不安にさせるものではない。むしろ、子供から大人まで全ての人々が安心するための仕組みである。この考え方が少しでも多くの人に広まり、気持ちよく税を納められる人が一人でも多く増えてほしいと願っている。